

意見陳述書

2021（令和3）年2月26日

原告 金平彩子

1 生い立ち

私は福岡市で生まれ育ちました。福岡市といっても、脊振山のふもとの佐賀との県境の長閑なところで、小学校も中学校も1クラスしかありませんでした。幼い頃、喘息やアトピーがあったせいか、母は無添加無農薬などの食材を使った食事やおやつをいつも準備してくれていました。

高校は食物調理科で、調理師の免許を取りましたが、農薬や添加物、遺伝子組み換えなどの食物や環境の問題について教わったことはありませんでした。それで、テレビで宣伝し、多くの人が食べたり使ったりしている商品が人体や環境に悪影響を及ぼすことがあるとは思っていませんでした。私自身は、幼い頃から食べ慣れた無添加や無農薬・減農薬の食材を好んでいたというくらいで、いわゆる無関心層だったと思います。原発もテレビで安全と言われていたので、何も問題だとは思っていませんでした。

高校を卒業してから就職し、20代半ばで結婚し、妊娠を機に退職しました。結婚した2011年には、東北大震災と福島第一原発事故がありましたが、当時の私はやはり、テレビで原発は安全と言っていたのだから、神戸の震災のようにいずれ復興していくから大丈夫だろうと思っていました。

2 子育てをしながら社会について考えるようになったこと

翌年には子どもにも恵まれ、初めての子育てをしながら、栄養ドリンクを家庭や職場へ配付するパートで働き出しました。女性のお客様で、子宮頸がん予防のためにワクチンを接種してから、睡眠障害や全身の痛みが出るようになったと苦しんでいる方がいました。しかし、病院に行っても原因不明で痛み止めを飲むしかないと悩んでいらっしかったです。

百聞は一見にしかずと言いますが、このような方を初めて目の当たりにした私は、国が推進していたワクチンで被害を受けた方が救済されるのは簡単ではないこと、テレビに出ている専門家や政府が言っていることが必ずしも正しいとは限らないということに少しずつ気づき始めました。

それで、社会の色々な問題については、自分で確認しなければ分からないと実感し、自分なりに調べてみると、農薬や添加物、遺伝子組み換えやゲノム編集食材が人体に及ぼすかもしれない影響などを知りました。

パートの仕事も、販売していた栄養ドリンクが遺伝子組み換え食材を使ったものであったことに愕然とし、自然食材の販売会社へ転職しました。

その後、第二子、第三子にも恵まれて子育ての忙しさも増しましたが、子連れでも気軽に学べる機会が欲しいと思い、2018年に友人知人に声をかけて、講師を招き、子連れで参加できる農薬とワクチンの勉強会を開きました。様々な問題がありながら農薬もワクチンも広く社会で認められていることに疑問が強くなりました。他にも様々な勉強会を開催するうちに、この勉強会は子育て世代の女性を中心に100名以上が登録して、ラインなどで盛んに情報交換していくようになりました。

3 原発について（過酷事故があったら）

友人達との勉強会の中で、多くの人が今なお関心を持っていたのが原発です。もし、玄海原発で事故が起こったら、私たちはどうすれば良いのか、どうすれば子ども達を守れるのかという思いから、2019年12月に勉強会を福岡市の天神で開催しました。講師の旅費やカラーで100ページ近くある資料を配付することとなり、会費は3500円でしたが、大人80名、子ども65名が参加しました。

勉強会では、主な放射性物質の特性や半減期、内部被ばくの怖さのほか、海産物では具体的にどのような種類の魚に放射線が残留しているのか等が紹介されました。また、事故があった場合に放射性物質を取り込まないための工夫として、屋内で外気を遮断することが大切で、窓には目張りを貼ったり、換気扇は使わず空気清浄機を使用し、玄関やサッシの開閉もできるだけしない、外出が避けられない場合には着用した衣服は玄関で着替えてシャワーを浴びすぐに洗濯すること、などが紹介されました。どうしても経済的な理由や高齢や障害などで避難が困難な家庭には有効だと思いました。

しかし、実際に幼い子どもが家の中だけで生活できるとは到底思えませんし、実際には安全な食材の入手も困難だと思います。事故を起こした原発の周辺や風向きの影響を受ける地域で被ばくを避ける生活を続けることは現実的には難しく、結局は被ばくについて考えないようにするしかないと思います。

原発事故後、福島では、放射線量が基準値以下の食材だけを販売していると言います。しかし、勉強会の資料には、除染ゴミが詰まった黒いフレコンバックが何百個も積み上げられた空き地の隣で稲作が行われている写真がありました。また、一時、産地偽装問題もあり、子どもに食べさせる食材を選ぶにはやはり躊躇があります。もし、玄海原発で事故があったら、私は基準値がどうあれ、地元食材は子ども達には食べさせられないと思います。

この勉強会などを通して知り合った友人には、東北や関東から福島第一原発事故の放射線被害から逃れるために福岡へ避難している人もいました。関東や東北から避難してきた友人達は、原発事故直後、放射線が降り注いでいることも分からずに子どもを外に出してしまったと悔やんでいました。原発事故の影響が少しずつ分かってきてからも、地元で放射線量を調べるとそれなりの線量が計測され、日によってもその時々の方角によっても放射線量が違うので、子どもの外遊びもなかなかさせられず、農作物も被ばくしている恐れがあり内部被ばくを防ぐために地元食材も食べられず、給食のある学校や保育園にも九

州の食材を取り寄せてお弁当を持たせていたそうで、地域で生活が続けることがとても苦しかったそうです。

家族で避難してきた友人は、夫の転職先が運よく福岡にあったから家族で避難できたそうですが、小学生の子どもに甲状腺検査で要経過観察の結果が出たとのことで、避難を止めることは考えていないと言っていました。

もう一人の友人は、夫は仕事の都合で関東に残り母子のみで福岡へ避難しているので、親戚や家族から批判され、避難生活が続けることも苦しいようです。それでも、避難してきた友人達は、子どもの放射線被害を防ぎ、悪化させないために必死に避難生活を続けています。

また、避難を続けるために離婚をした避難者もいますし、避難したいけど避難できないと苦しんでいる友人もいます。そして、避難できない友人達は現実から目を背けてしか生活ができないともがいています。

それでも、甲状腺癌検査では原発事故前とは比較にならないほど多くの子ども達に嚢胞などが見ついている現状があり、誰から何を言われようとも、避難を選択せざるを得ない人がいるのは当然だと思います。もし、玄海原発で事故があったら、私も子ども達とどこに避難すれば良いのだろうかと悩みます。

国は、子ども・被災者支援法により、避難する人も避難しない人も支援すると言っていたはずですが、しかし、実際は多くの避難者が、私の友人達のように国から何の支援も受けることなく切り捨てられ、自己責任とされています。原発が過酷事故を起こせば、目に見えない放射線の被害だけでなく、地域や家族をも壊すのだということを実感しています。

4 原発について（過酷事故がなくても）

私は、原発は、過酷事故を起こさなかったとしても、放射性廃棄物の問題が解決しないことが一番の問題だと思います。原発は、経済的にも引き合わず、世界で過去の発電方法になりつつあり、子ども達が大人になる頃には、日本でも過去のものになっていると思います。それでも、原発から出た放射性廃棄物は何百年も放射線を出し続けるので、子ども達には発電のメリットもないのに、ただ管理するだけの大きな負担を押し付けることになります。

また、原発周辺地域では白血病等の放射線の影響を受けたと思われる病気が多いと言っている人もいますので、佐賀に隣接する福岡に住んでいることにも不安はあります。私の実母は、2019年3月に末期の肺がんが見つかり、6月には死亡してしまいました。母は元々玄海原発から50キロ圏内に近い福岡市西区の海の近くに住んでいて、私が社会人になった後に戻って、海の物もよく食べていたので、玄海原発の影響がなかったのか気になっています。

5 玄海原発について

福島原発事故から今年で10年になりますが、私は30代半ばとなり、3人の子どもにも恵まれ、忙しくも幸せに暮らしています。私自身は、10年前の原発事故直後には無関心でしたが、知れば知るほど、原発の安全性への疑問は募ります。

勉強会を通じて知った友人からこの裁判を教えてもらい、2013年から原告団で取り組んだ風船プロジェクトを知りました。季節ごとに玄海原発の隣の広場から放射性物質に見立てた1000個の風船を飛ばし、風船を拾った方からいつどこで風船を発見したのかを確認していったそうです。その資料を見ると、佐賀県の玄海原発周辺地域で多数の風船が発見されたものの、冬は偏西風によって四国や奈良県まで到達したのが確認され、春には山口・広島・四国で、夏には福岡と熊本のほぼ全域で、秋には佐賀と熊本のほぼ全域で確認されたそうです。風向きで物質の到達する方向がこんなに違うのかと驚きました。

もし玄海原発で過酷事故が起こったら、事故直後は携帯電話も使えるか分かりませんし、混乱して家族や親類に連絡もつかないでしょう。情報も錯綜しているなか、その時いた場所や行く先によってかなり被ばくしてしまうと思います。福島第一原発事故の直後に飯館村へ避難した方々のように、後になって線量の高いところへ移動していたことが分かれば、私は子ども達に申し訳ないと思い、悔やんでも悔やんでも悔やみきれないと思います。しかし、その時に安全な選択ができる保証はどこにもありません。

もしも、玄海原発で事故が起きたら、福島第一原発からの避難者はどこに逃げれば良いのでしょうか。東にも西にも逃げられず、逃げる場所が日本にはなくなってしまいます。これは、福岡に住む私も同じ悩みを持っています。

原発事故をきっかけに市民が様々な活動で結びついていますが、一般市民に伝わってないということも感じます。私は、勉強会や子連れの人々との集まりを通じて、様々な活動を緩やかに結びつけていきたいと思っています。原発の問題は他人事ではなく、知ってしまった限り、これからも私にできることを考えて動いていこうと思います。

6 裁判所に望むこと

私のような無関心だった人でも、事実を知れば、何より自分ごととして考えると、危険で不経済で子ども達に放射性廃棄物だけを残す原発は稼働をすぐにやめるべきだと考えるようになりました。

裁判官の方々は、この裁判で、原発で起こってきた事実や問題を知ったはずですが。玄海原発が過酷事故を起こしたら、佐賀や福岡に住んでいる私達も裁判官も九州電力の方々も差し迫った自分の問題になります。過酷事故を起こさなくても、自分の子どもが原発で働いていたら、玄海原発の近所に自宅や実家があったら、自分ごととして考えて判決を出してほしいです。

以上